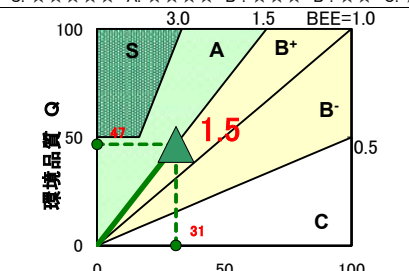
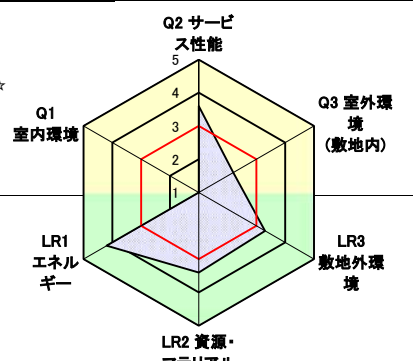


CASBEE[®]-建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)オリジン吉見工場新倉庫棟	階数	地上1F
建設地	埼玉県比企郡吉見町大字長谷字八幡1914番、1915番、1916番、1917番、1918番	構造	S造
用途地域	工場専用地域、法第22条区域	平均居住人員	25 人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年4月25日
敷地面積	35,531 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社北関東建築一級建築士事務所
建築面積	3,836 m ²	確認日	2024年4月25日
延床面積	3,829 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社北関東建築一級建築士事務所

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.5 S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.6 機能性 耐用性 対応性	Q のスコア= 2.8 Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.2 生物環境 まちなみ 地域性・
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2 建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.4 水資源 非再生材料の 汚染物質	LR のスコア= 3.7 LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.3 地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
外壁は耐火断熱サンドイッチパネルを採用、屋根は長尺ガルバリウム鋼板折版二重葺断熱工法を採用し、断熱性能に配慮している。		-
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
-	階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	自動水栓や、節水こま、省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。	燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)オリジン吉見工場新倉庫棟

欄に数値またはコメントを記入

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境		-	-	-	-	-
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	-
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.6
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性		3.0	0.50	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.22	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.22	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:コンクリート65年、壁:石膏ボード30年、天井:銅板40年	5.0	0.11	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不採用	5.0	0.22	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.22	-	-	-
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			4.3	0.50	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	基準階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	[壁長さ比率]<0.1	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-	
倉庫床:4500N/㎡以上							
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	配管内配線により仕上材を痛めずに更新修繕	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	配管内配線により仕上材を痛めずに更新修繕	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.40	5.0	0.63	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
自動水栓、節水こまや節水型便器を採用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
断熱材:土間下、ビニル系床材:休憩室床			4.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	
持続可能な森林から産出された木材			5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材							
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.22	-	-	
内装が乾式工法で分別性・設備との錯綜に配慮							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			4.4	0.33	-	-	4.4
ライフサイクルCO2排出率64%							
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
燃焼機器を採用していない							
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称

(仮称)オリジン吉見工場新倉庫

BEE

1.5

BEEランク

★★★★

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO₂の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア

4.4

+

2.0

=

6.4



重点項目の各スコアの合計点

がんばろう
6.0未満良い
6.0以上非常によい
6.8以上すばらしい
8.0以上

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減

スコア平均 4.4

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

LR3 敷地外環境対策

1. 地球温暖化への配慮

スコア 4.4

ライフサイクルCO₂排出率64%

(2) 緑の保全・創出

スコア平均 2.0

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

Q3 室外環境(敷地内)

1. 生物環境の保全と創出

スコア 1.0

Q3 室外環境(敷地内)

3. 2 敷地内温熱環境の向上

スコア 3.0

LR3 敷地外環境

2. 2 温熱環境悪化の改善

スコア 2.0

 : 入力欄